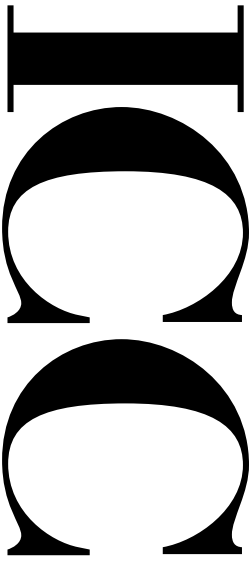


公益財団法人 国立京都国際会館 広報誌



Kyoto

2016
Summer



Beyond 50th Anniversary
～ 50年の歴史を誇りに～



国立京都国際会館
開館50周年記念
特集号



Kyoto International Conference Center

巻頭インタビュー
Interview

iPS細胞の研究開発を成功へと導き、この京都の地でイノベーションを生み出す



「第29回日本医学会総会2015関西」で講演される山中先生



京都大学iPS細胞研究所
所長・教授

山中 伸弥 氏

Shinya Yamanaka

Profile 1962年大阪府生まれ。神戸大学医学部卒業後、博士研究員として渡米。帰国して数年後にiPS細胞の研究をスタートし、2006年に開発成功を発表した。2012年にノーベル生理学・医学賞をジョン・ガードン博士と共同受賞。

インタビュアー

木下 博夫 Hiroo Kinoshita

Profile 1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路(株)社長等を経て、2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。

“Medicine”への貢献を目指して

木下博夫館長(以下、木下) 山中先生がiPS細胞の研究成果によってノーベル生理学・医学賞を受賞された際、「これはスタートだ」とおっしゃっていた言葉が大変印象に残っております。

山中伸弥氏(以下、山中) 私が受賞したノーベル生理学・医学賞は、原題では“The Nobel Prize in Physiology or Medicine”。つまり、生理学か医学のどちらかに対して賞を与えるということです。そのため受賞時は、生理学での受賞であると私自身は捉えていました。医師として臨床に従事していたとき、難病の患者さんを治せないことに^{じくじ}挫けた思いを抱いていました。iPS細胞の開発を目指したのも、当時果たせなかった治療を実現させたいと考えたからです。そうした意味では、受賞自体は喜ばしいことですが、まだまだ医学の領域までには及んでいない。“Physiology”で終わるのではなく、新薬の開発を含めて必ずや治療法を完成させ“Medicine”に貢献したい。そう強く感じたために、「これがスタートだ」という言葉が口について出たのだと思います。

異分野交流で「大きなうねり」に対応

木下 山中先生がマウスiPS細胞の作製に成功されて、10年が経過しました。そのなかでiPS細胞の研究開発に邁進してこられたわけですが、近年の科学や医療分野の技術開発全般に、「大きなうねり」を感じるとおっしゃっていますね。

山中 生命科学や医学の分野の基礎研究において、日本は非常に優秀です。これまで、数多くの成果を残してきました。ところが、それを応用し社会に還元するという実績においては、他国に比べて大きく引き離されているのが現状です。例えば、新薬の開発においては、基礎から応用へと移行したのちに最終的には大企業に託すことになるので

すが、日本には“橋渡し”と呼ばれるこの役割を担う組織が脆弱です。アメリカではベンチャー企業が橋渡し役を請け負い、ファンドから潤沢な資金を用意してもらって優秀な人材を集めて研究開発を行います。日本では、アメリカのような“ベンチャーマインド”が育たない風土があり、そうした企業を育てることは容易ではありません。日本特有の文化として「失敗しない」ことを最優先させるため、成功するかどうか分からない研究に膨大な資金と労力をかけることに躊躇してしまうのです。そこで、京都大学iPS細胞研究所では、アメリカにおけるベンチャー企業の役割を果たすことを目指し、大学でできることは大学でやろうとしています。今までとは違ううねりを作ろうとしています。

木下 そのままで大掛かりな研究体制を構築すると、先生をリーダーとする研究者だけでなく、支えるスタッフなどを含めてこれまでにない大きな“チーム力”が必要になるのではないのでしょうか。

山中 おっしゃる通りです。基礎研究の段階では小規模な研究室で少数の研究者たちで行う形でもよいのですが、その先の段階からは、技術者だけでなく生命倫理や特許、契約、規制、広報などさまざまな分野の方々の協力が不可欠になります。研究そのものに関しても、これまでのように医学部出身者だけでなく、数学や物理学、工学と

いった異分野の研究者とも連携する体制を築かないと、新しい成果を生み出すことはできません。従来のような開発体制のままでは、とても

世界のなかでは太刀打ちできないのです。

木下 2015年の4月、国際会館を中心に関西一円で医学会総会が開催されました。山中先生にもご講演いただきましたが、一部の講演に初めて企業や一般の方々の参加が可能になるなど、社会に開放された画期的な総会となりました。また、タイトルも「第29回日本医学会総会2015関西」となり、初めて“関西”と大きなエリアでの取り組みがなされました。さまざまな地域・分野にわたる、横の連携強化を象徴する総会となりましたね。

山中 医療の世界も、医師がヒエラルキーの頂点に君臨して看護師などのメディカルスタッフに指示を出し、患者さんはそれに従うのみといった考え方からは大きく変化してきています。今では、よりよい成果を上げるために、医師も医療スタッフも患者さんもすべて同列で意見を述べ合う環境が整いつつあります。医療だけに限りませんが、新しいイノベーションを生み出すためには、結果として何色になるのか分からなくても、一時的には混乱をきたすことがあったとしてもやって

みるのが大切です。そう考えると、従来の常識や習慣を大胆に変える、まさに「大きなうねり」の時期が来ていると感じますね。

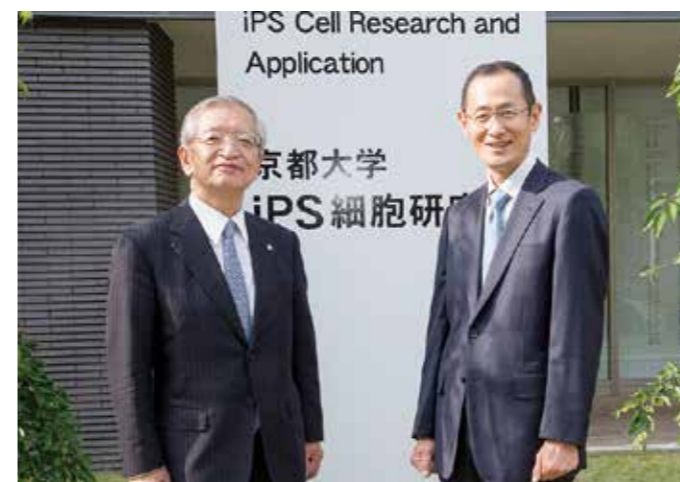
恵まれた立地・京都で継続的な研究を

木下 京都大学iPS細胞研究所の今後について、目標をお聞かせください。

山中 新技術の開発には多くの時間を要するため、この研究所を10年、20年、30年と持続可能な組織に育てていくことが第一の目標です。それには、私たちの「iPS細胞研究基金」の寄付募集活動を中心に、資金面での充実を図ることが重要で、広く市民にご支援を呼びかけています。もうひとつは、繰り返しになりますが、今は異分野、異文化が交わらないと何も生み出せない時代。私たちはその点、すぐ近くに各界のトップが世界中から集まる国際会館があって本当にラッキーです。多様な世界を知り、私たちのことも知ってもらおう。そうして、研究の進展につなげたいですね。

木下 国際会館は、今年で50周年を迎えました。その契機に約5,000人の収容を目指した新しい多目的ホールを建築しているところです。また、山中先生がおっしゃる通り、国際会館は、世界の多種多様なトップの方々が交流できるサロンのような役割を果たしていきたいと考えています。どうか、今後の国際会館に期待していただき、これからも大いにご利用ください。本日は、ありがとうございました。

(文中敬称略)



特集 [成長編] Growth period

The 50-year History of the ICC Kyoto

第1回目では、日本初の国際会議場が誕生、そして開館するまでをご紹介します。
第2回目は、全世界の注目を集めた重要な国際会議が次々と開催された時代を進化と発展と共に紹介する成長物語。

Column

COP3の裏舞台

1997年のCOP3では、連日連夜にわたって議論が紛糾。会議の運営は困難を極めました。そんな会期も後半となった深夜のこと。いつまでも扉が閉まったままのトイレがあると、血相を変えた同時通訳者から職員に相談が…。しかし、翌日には何事もなく元通り。今でも真相は謎のままですが、交渉は徹夜が続き、それだけみんな疲労困憊だったということでしょう。

▶▶1967(昭和42年)

茶室「宝松庵」完成

庭園敷地内に茶室が完成し、初代理事長・松下幸之助氏より「宝松庵」と命名されました。桧皮ぶき木造平屋建ての数寄屋造りで、茶庭は周囲の山々や宝ヶ池を借景にしています。



▲茶室「宝松庵」

▶▶1985(昭和61年)

「第1回京都賞授賞式」

稲盛財団主催による国際賞で、毎年本会館で授賞式が行われる「京都賞」。国籍や人種、性別、年齢、信条を問わず、科学の発展や精神的深化の面で大きく貢献された方々に贈られます。



▲受賞賛歌の歌唱シーン

▶▶1997(平成9年)

「地球温暖化防止京都会議(COP3)」

温室効果ガスの削減数値目標を決定する「地球温暖化防止京都会議(COP3)」が、12月1日から11日までの11日間開催されました。締約国およびオブザーバー国161カ国、地域の代表2,273名、NGOなどのオブザーバー3,865名、報道機関483社、3,712名の計9,850名が登録参加。「京都議定書」を採択して幕を閉じ、「Kyoto」の名を世界に知らせた国際会議となりました。



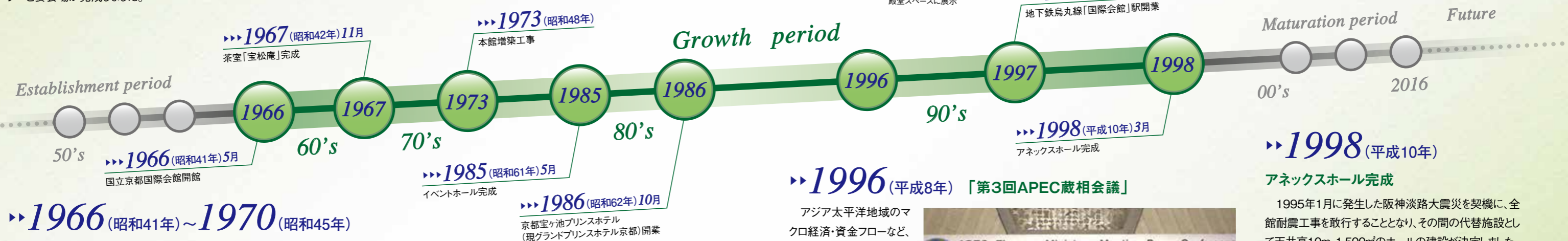
▲京都議定書採択の瞬間に打ち鳴らされた木槌
本館KYOTO地球環境の殿堂スペースに展示



▲全体会合

▶▶1973(昭和48年) 本館増築工事

国際会議に対応すべく、6カ国語同時通訳設備や中継用ブースを備えた共同記者会見室、プレス用事務室や個室を完備したプレスセンターと宴会場が完成しました。



▶▶1966(昭和41年)~1970(昭和45年)

会館設立当初の会議

日本で最初の国際会議場として誕生して以来「第5回日米貿易経済合同委員会」を皮切りに、政府間会議や国連などの国際会議・学会が数多く開催されます。



▲第1回日本万国博覧会参加国政府代表会議

▶▶1985(昭和61年) イベントホール完成

3,000㎡の広々とした無柱空間は、会議・展示会からコンサート、レセプションなどあらゆるイベントに対応できる多目的ホールです。カフェテラスや宿泊施設ロジックも併設しています。



▲イベントホール

▶▶1996(平成8年) 「第3回APEC蔵相会議」

アジア太平洋地域のマクロ経済・資金フローなど、幅広い経済問題を討議するAPEC蔵相会議。APECメンバーの18カ国・地域の大蔵大臣らが参加した、金融情勢に関する課題などの討議が行われ、共同声明が採択されました。



▲プレス発表

▶▶1997(平成9年)

地下鉄烏丸線「国際会館」駅開業

1992年に地下鉄の延伸計画が承認され、1997年6月3日、国立京都国際会館に直結する「国際会館」駅が開業。アクセスが抜群になりました。



▲「国際会館」駅にて開通発車式

▶▶1998(平成10年)

アネックスホール完成

1995年1月に発生した阪神淡路大震災を契機に、全館耐震工事を敢行することとなり、その間の代替施設として天井高10m、1,500㎡のホールの建設が決定しました。遮音効果に優れた稼働間仕切りにより、2分割使用を可能にしています。



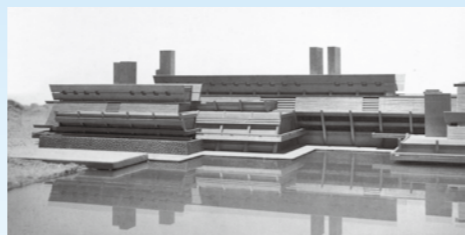
▲アネックスホール

京都から世界へ。世界から京都へ。
50年の歴史を誇りに。

国立京都国際会館

半世紀の歩み

Beyond 50th Anniversary



▲コンペ応募時の模型



▲施工開始当時の現地の様子▲



▲1970年頃の本館全景▲



▲完成当時の茶室「宝松庵」



▲イベントホール夜景



▲イベントホール建設中の様子



▼イベントホール内観



▲イベントホール全景▲

11月 岸信介内閣が「会議場の必要性と京都周辺設置」を閣議決定	11月 宝ヶ池、大亀谷、京都御所、大原野、長岡京、大山崎、宇治、亀岡と大津市皇子山を候補地とする声が高まる	9月 京都に誘致決定	11月 建設省主催で現地起工式（1959年9月、宝ヶ池に決定）	3月 建物工事に着工（設計競技で、大谷幸夫氏の作品を採用）	2月 竣工式、及び会館開館式	2月 前京都市長の高山義三氏、初代館長に就任	2月 松下幸之助氏、初代理事長に就任	5月 第3回日本万国博覧会参加国政府代表会議	2月 第5回関西財界セミナー（以後、主に京都で開催）	11月 茶室「宝松庵」完成	11月 国際青年会議所世界会議	7月 第5回日米貿易経済合同委員会をこけら落としとして開催	12月 プレスセンター完成	1月 報道関係施設及び宴会会場完成	5月 第23回国際眼科学会	9月 国際林業研究機関連合第17回世界大会	9月 第12回世界神経学会	2月 第9回四極貿易大臣会合	4月 イベントホール完成	11月 第1回「京都賞」授賞式 受賞者講演会・ワークショップ	10月 京都宝ヶ池プリンスホテル（現グランドプリンスホテル京都）開業	11月 第1回世界歴史都市会議	4月 第1回国連軍縮京都会議	3月 第23回日本医学会総会	3月 日本アカデミー賞授賞式	3月 第8回ワシントン条約締結国会議	8月 第29万国地質学会議		
1957	1958	1959	1962	1964	1966	1967	1969	1970	1972	1973	1978	1979	1981	1985	1986	1987	1989	1991	1992										
50's				60's					70's							80's												90's	
1958年12月 東京タワー完成	1959年12月 皇太子(平成の天皇)ご成婚			1964年10月 東京オリンピック開催	1966年6月 ビートルズ初来日	1967年8月 東南アジア諸国連合(ASEAN)結成		1970年3月 大阪万国博覧会開催		1972年5月 沖縄返還						1981年4月 スペースシャトル打ち上げ成功	1979年6月 東京サミット											1989年1月 昭和から平成に	



▼第5回日米貿易経済合同委員会



▲国際青年会議所世界会議



▲第3回日本万国博覧会参加国政府代表会議



▲第23回国際眼科学会

▲世界宗教者平和会議



▼第9回四極貿易大臣会合



▲第1回「京都賞」授賞式



▲第1回国連軍縮京都会議



▲第23回日本医学会総会



▲日本アカデミー賞授賞式



▲第8回ワシントン条約締結国会議



▲第1回世界歴史都市会議



▲アネックスホール内観



▲アネックスホール建設中の様子



▲アネックスホール



▲屋根付歩廊イメージパース(設計時)



屋根付歩廊▲



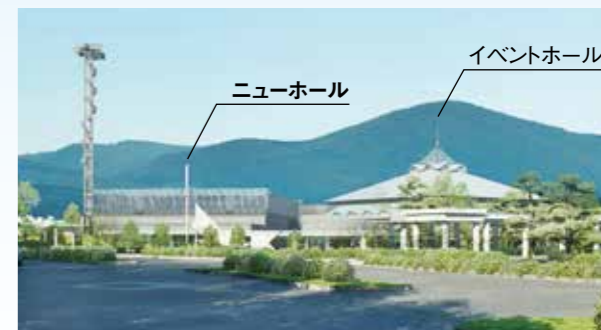
▲外壁耐震改修工事



▲メインホール内観



メインホール耐震工事▲



ニューホール完成イメージ▲



90's

00's

2016

▶国際電気通信連合(ITU)全権委員会会議



▲第45回国際捕鯨委員会科学委員会及び総会



▲第3回APEC蔵相会議



▲地球温暖化防止京都会議(COP3)



▲第22回世界遺産委員会京都大会



▲第1回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)



▲ASEM第7回外相会合



▲第40回アジア開発銀行年次総会



▲源氏物語千年紀記念式典



▲KYOTO地球環境の殿堂表彰式



▲第29回日本医学会総会2015関西



▲第17回APEC財務大臣会合



▲第63回国際電気標準会議京都大会



▲第3回世界水フォーラム



▲第26回国際内科学会



▲第20回国際生化学・分子生物学会議



▲第36回国際生理学会世界大会



▲第17回APEC財務大臣会合



▲東アジア地域包括的経済連携第8回会合

国立京都国際会館 開催会議

開催報告

第13回国際人類遺伝学会
2016年4月3日(日)～7日(木)

4月3日(日)から7日(木)にかけて、第13回国際人類遺伝学会が開催されました。

本会議は、国際人類遺伝学会連合(IFHGS)が5年に一度開催する会議であり、IFHGSの60年の歴史において今回が初のアジア開催となりました。

メインテーマを「ゲノム医学が拓く明日の医療」とし、遺伝医学分野の講演や発表、展示が行われ、活発な議論が繰り広げられました。

会期中は約3,000名が参加され、アジアにおける人類遺伝学、遺伝医学の啓発、発展にも大きく貢献する会議となりました。



開催報告

第53回日本リハビリテーション医学会学術集会
「軌轍と融和 Kitetsu & Yuwa」
2016年6月9日(木)～11日(土)

6月9日(木)から11日(土)まで、「第53回日本リハビリテーション医学会学術集会」が、国立京都国際会館およびグランドプリンスホテル京都を会場に開催されました。

超高齢社会の到来に伴い、さまざまな疾病を起因とする障害は複雑化し、リハビリテーションの果たす役割はますます大きくなっています。このような背景のもと、本学術集会のメインテーマは「軌轍と融和 Kitetsu & Yuwa」に選定されました。先人の「軌轍」すなわち軌から基本的な知識と技能を学び、臨床各分野との協調、多職種間の連携による融和を図ることで、リハビリテーション分野をさらに飛躍させるというねらいがありました。

第1日目に行われた会長講演では、日本リハビリテーション医学会理事長で京都府立医科大学副学長の久保俊一会長が、「リハビリテーションの対象者や疾患はともに大きく増えており、成果の蓄積を活かし、

各学会や団体が融和してチーム医療の推進を図ることが大事」と訴えておられました。

会期中は、山折哲雄先生による文化講演、基調講演、14の特別講演、86の教育講演、19のシンポジウム、29のパネルディスカッション、そして35のセミナーが企画され、7,300名を超える参加者のもと、熱のこもった討議が交わられました。また、国際リハビリテーション医学会(ISPRM)との合同シンポジウムや10カ国以上の海外招待者による講演があり、国際交流も活発に行われました。さらに、150以上の企業や団体による最新リハビリテーション機器の展示があり、学術集会における大きな刺激となっていました。特別企画として、華道家元池坊の次期家元、池坊専好氏によるいけばなデモンストレーションがメインホールで行われるなど、多彩な3日間となりました。



第53回日本リハビリテーション医学会 会長 久保俊一氏



国立京都国際会館 開館50周年記念イベント

開催予告

乾杯の夕べ2016 ～チェコからドブリーデン(こんにちは)! 歴史ある都へ～
2016年7月30日(土)～31日(日) 17:00～20:30(雨天決行)

地下鉄国際会館駅開業を記念して始まった、国立京都国際会館の夏のイベント「乾杯の夕べ」も今年で20回目!今回は、国立京都国際



会館開館50周年と京都・ブラハ姉妹都市提携20周年を記念して、テーマ国は「チェコ共和国」。お弁当やビール・ジュース飲み放題のほか、チェコの名物料理を味わえる屋台の出店や、同国の文化・芸術を紹介する展示コーナーなどを展開。庭園水上ステージでは、日本でも親しまれているチェコ民謡などの演奏、さらには豪華賞品が当たる大抽選会などなど。クライマックスはナイアガラをはじめとするお待ち

ちかねの打ち上げ花火。今年の「乾杯の夕べ」も特別企画が目白押し。チケットは各プレイガイドでお早めにお求めください。

同時開催イベント

地下鉄開業35周年・国立京都国際会館 開館50周年記念祭
「地下鉄に乗って国際会館に行く!!」
2016年7月30日(土) 11:00～16:00

会場：イベントホール
※「乾杯の夕べ」は有料

京都市交通局と国立京都国際会館は、地下鉄開業35周年及び国立京都国際会館 開館50周年を記念して、現役運転士が操作方法をアドバイスするトレインシミュレータや交通局掘り出し物市など「見る、知る、体験する、食べる」の楽しい企画がいっぱいのイベントを開催。



画像提供：国立京都国際会館
©Kyoto Municipal Transportation Bureau 2013-2016
Illustration by 賀茂川

入場無料

Pick up

平成28年度
全日本珠算選手権大会
2016年8月8日(月)

毎年、8月8日の「そろばんの日」に開催されている「全日本珠算選手権大会」。文部科学省が後援し、全国から500名を超える選手が参加。その年のそろばん日本一を決定する個人総合競技、読上暗算、読上算、フラッシュ暗算、都道府県対抗競技と、そろばんの達人たちによる熱い競技が実施される大会です。昨年に続き、今年も国立京都国際会館で開催されますので、この珠算界最高峰のイベントに多数のご参加をお待ちしております。

第40回国際外科学会世界総会
2016年10月23日(日)～26日(水)

国際外科学会は、一般外科をはじめとする「すべてメスを持つ者の会」で、会員は世界108ヶ国、約14,000名、44の支部会(国単位)の規模を持つ国際的な組織です。医学の目覚ましい進歩に伴う医師の生涯教育や、国際交流を大きな目標として活動しています。その「第40回国際外科学会世界総会」が、国立京都国際会館で開催。今回は、「第62回国際外科学会日本部会総会」との合同開催となり、10月23日(日)から26日(水)にかけて実施され、約3,000名の参加が予定されています。

会館裏ばなし 第2話

「国際会館のアイドル」



会館のアイドル、白鳥の幸子です。
よろしくお願ひしま〜!!

会館の庭園では「幸子」という名前の一羽の白鳥が水面を優雅に泳ぎ、訪れた人々の目を楽しませています。

現在は残念ながら彼女1羽だけですが、会館を紹介する新聞コラムの案内役として登場するなど、広告担当としても活躍しています。

お茶目で人懐っこい会館のアイドル的存在として、みんなから愛されています。

開催予定イベント・会合一覧

2016年7月1日現在

催事名	日程	人数
第1回世界麻環境フォーラム	7月 2日	290
平成28年度京都府PTA指導者中央研修会	7月 7日	1,400
The 4th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis(AOCC)	7月 7日～10日	700
第7回日本炎症性腸疾患学会学術集会	7月 9日～10日	400
第7回スティミュレーションセラピー研究会 in 京都	7月 9日～10日	180
第121回日本循環器学会近畿地方会	7月 16日	1,300
TAKARA JAPAN グランプリ	7月 17日	300
第14回技術講演会	7月 21日～22日	500
第4回日本糖尿病療養指導学術集会	7月 23日～24日	500
乾杯のタベ2016	7月 30日～31日	3,500
第9回環太平洋先端材料とプロセッシング国際会議	8月 1日～5日	1,300
一般社団法人日本磁気共鳴医学会第38回MR基礎講座	8月 6日～7日	280
全国障害者問題研究会第50回全国大会 京都大会	8月 6日	1,800
平成28年度全日本珠算選手権大会	8月 8日	550
Kyoto Ram Katha	8月 20日～28日	750
第27回生体系磁気共鳴国際会議	8月 21日～26日	800
第20回国際分析心理学会	8月 28日～9月 2日	1,000
第9回アジア金属労組連絡会議	9月 2日～3日	80
第10回小児科専門医試験	9月 3日～4日	1,000
「看護記録」ギモン解決セミナー	9月 4日	150
RubyKaigi 2016	9月 8日～10日	700
日本機能水学会 第15回学術集会	9月 10日～11日	250
第26回日本医療薬学会年会	9月 17日～19日	7,000
The XVIIth International Symposium on Retinal Degeneration	9月 20日～23日	400
第28回汎太平洋不動産鑑定士・カウンセラー会議	9月 26日～29日	500
科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)第13回年次総会	10月 2日～4日	1,200
保団連医療研究フォーラム	10月 9日～10日	500
第23回C型肝炎及び関連ウイルスに関する国際会議	10月 11日～15日	700
第26回国際原子力機関核融合エネルギー会議	10月 17日～22日	1,200
第40回国際外科学会世界総会	10月 23日～26日	3,000
第10回日本薬局学会学術総会	10月 29日～30日	4,000

Pick up
イベント
(P10参照)Pick up
イベント
(P10参照)

※参加者80名以上の会議



2016 Summer号の表紙

成長

開館から1990年代にかけては、国立京都国際会館の発展期。全世界注目の国際会議が数多く開催され、増改築によって施設も充実していきました。そんな、大きな飛躍を遂げた時代をイメージしています。

ICC Kyoto

Kyoto International Conference Center

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館
住所 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
TEL 075(705)1218
FAX 075(705)1100
E-mail com@icckyo.or.jp
URL http://www.icckyo.or.jp/

国立京都国際会館

検索

©All right reserved - Kyoto International Conference Center